

人間情報デザイン論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間情報に関わるデザインの基本的な考え方を解説する。まず、情報伝達の基本理解として、視覚障がい者用音声・触覚情報提示器などの試作品開発事例を取り上げて具体的に解説する。次に、IT機器と人間とのインタラクションの考え方を解説する。さらに、人間中心設計と、主に製品に関するデザインプロセスの概要及び組織におけるデザインの役割等について解説する。その上で、世界中の多様な人々が国や文化を超えて理解し得る情報デザインの表現手法についても具体的に解説する。

■**到達目標**：人間情報に関わるデザインの基本的な考え方を理解するために、次の点を到達目標とする。

- ①人間の情報伝達の基本と表現方法を理解する
- ②IT機器と人間とのインタラクションの考え方を理解する
- ③製品(もの)のデザインの基本を理解する

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎城間 祥之、安齋 利典、石井 雅博

■**授業計画・内容**：

第1回	人間情報デザインとは、国際デザインワークショップから学ぶデザインの基本的な考え方	(城間)
第2回	視覚障がい者用音声・触覚情報提示器の試作品開発事例から学ぶデザインの基本的な考え方	(城間)
第3回	世界の話題を視覚情報化する：TIME Magazineの表紙デザイン(1)	(城間)
第4回	世界の話題を視覚情報化する：TIME Magazineの表紙デザイン(2)	(城間)
第5回	未来(30年後)の情報社会とデザイン	(城間)
第6回	インタラクションとは	(石井)
第7回	ユーティリティとユーザビリティ	(石井)
第8回	ユーザエクスペリエンス	(石井)
第9回	インタラクションデザインの方法	(石井)
第10回	インタラクションデザインの評価手法	(石井)
第11回	人はなぜデザインするようになったか	(安齋)
第12回	人間中心設計について	(安齋)
第13回	製品を例としたデザインプロセス	(安齋)
第14回	組織におけるデザインの役割	(安齋)
第15回	「もの」のデザインと「こと」のデザイン	(安齋)

■**教科書**：なし

■**参考文献**：柏木博「デザインの教科書」講談社現代新書、野口尚孝・井上勝雄「モノづくりの創造性」海文堂

■**成績評価基準と方法**：2/3以上の出席(欠格条件)30%、毎回の授業内容をまとめたレポート(300文字程度)60%、授業態度10%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	毎回の授業のレポート	60%
授業態度	○	○	○		10%
発表					
作品					
出席	○	○	○	2/3以上の出席	30%
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間空間デザイン論

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：書籍や雑誌他により、広くデザインに関する知識を習得し、よりデザインの「もの」や「こと」に接して欲しい。

欠席時数が全体の1/3を超えた場合は単位認定しない。欠席時数が各担当教員の持ち時間数の1/2を超えた場合も単位認定しない。遅刻・欠席、及びレポート未提出は成績評価に悪影響する。